

この先生にズームイン

家でのBGMに

2、3年前からジャズピアニストのビル・エヴァンスがお気に入り、家では彼のCDをずっとかけている。「ジャズに興味があったわけではないのですが、ある日聴いてみたら「あ、見つけた」という感じで好きになりました」。知人から彼に関する本を譲ってもらい、理解を深めているところだという。



研究室に常備

セブンプレミアムのチョコチップクッキーを研究室に常備し、いつも食べている。「私の中ではロングセラー。すごくおいしくて、手が汚れないところもいいですね」



こだわりのカップたち

「白色で、見た目がいい上に重ねて収納でき、受け皿は普通にお皿としても使えて…」とほれ込んで購入した白いカップは自宅でコーヒーを飲むときに愛用中。ドイツのメーカーのもので、国内での取り扱いが終了したことを残念がっている。一方、備前焼のカップは「岡山出身なので」。



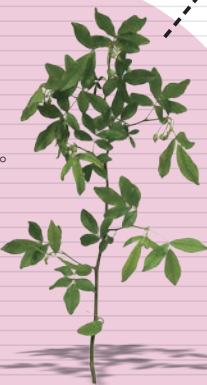
お酒はワイン派

写真は、送別の際のいただきもの。お酒を飲むことが「今日の活動はおしまい」の合図。「味は分からないので、いつも甘くて安いものをスーパーで購入しています」。最近は飲む量を少々控えめにしていくとのこと。



庭いじりが好き

「気持ちのいい空間にしたい」と、自宅の庭でさまざまな植物を育てている。写真のモッコウバラは亡くなった愛犬が眠っている所に植えたもので、3年目にしてようやくたくさんの白い花をつけたという。



先生に質問!

A 担当する授業で、学生が自分たちで納得できる答えを考える形式のグループワークをすると、私が一方的に教える場合に比べて学習効果がぐんと上がり、時にはとてもいいアイデアが出る場合があります。その講義内容をみんなが使いやすい形にできればと思ったのがきっかけです。時間の関係上、授業で使う機会が少ないのが残念です。学生には人の話をよく聞き、自らもよく話し、中と外との応答を常にできるように努めてほしいと思います。

Q なぜ取り組もうと思ったのですか。



パンフレットはモデ研の事務局で入手可能

どう変化していったかが分かるようになっていきます。

A 教員が学校の研修会などで使える研修パッケージを2年がかりで開発し、実践しやすいように冊子化したパンフレットを今年1月に発行しました。研修は「喫茶もここ」と「暗闇のちこ」という2バージョンがあります。どちらもレトロな喫茶店に居るような話しやすい雰囲気の中、特定のテーマについて参加者同士が意見を出し合いながら共通解を導き、それを積み上げていくワークショップ型の内容です。他者との対話によって、自身の考えが

Q 先生はモデ研のメンバーとしても活動されていますか。

いし ばし ゆ き こ 石橋由紀子 准教授 発達障害支援実践コース

岡山県出身。平成16(2004)年、兵庫教育大学大学院博士課程を修了。岡山大学教育学部障害児教育講座の技術補佐員、同大学付属養護学校非常勤講師、京都教育大学非常勤講師を経て17(2005)年に兵教大の講師になり、25(2013)年から現職。専門は特別支援教育学で、近年は特別支援教育コーディネーターの養成を中心に研究している。学内の特別支援教育モデル研究開発室(モデ研)のメンバーの一人。授業は「コーディネート概論」(修士課程)、「特別支援教育II(歴史)」(修士課程)などを担当。

Q&A